

令和6年10月

131

- ◆新たな担い手育成対策をはじめました
- ◆女性切り花生産者部会「リリース」の活動支援
- ◆タバコカスミカメ製剤を用いたコナジラミ類の防除
- ◆水封マルチを利用したスイートコーンの前進栽培
- ◆ダイコンの冬越し・初春どり栽培のポイント
- ◆「未来に残す東京の農地プロジェクト」の概要
- コラム：「盛土規制法」運用開始のお知らせ
- ◆一口メモ：葛飾区のブルーベリー観光農園
- ◆一口メモ：八王子産酒米の利活用
- ◆お知らせ



●東京都農業振興事務所ホームページで
最新号とバックナンバーをご覧ください



東京都産業労働局

TokyoTokyo

区部農業改良
普及センター

新たな担い手育成対策を はじめました

区部普及センターでは、令和5年度から多様化する担い手の確保・育成のため、城北地区（練馬区、板橋区）と江東地区（江戸川区、葛飾区、足立区）において、実践的な技術取得を目指した「農業実践力養成セミナー」を、それぞれJA東京あおば、JA東京スマイルとの共催により開始しました。城北地区では、9月から第1期を開講しました。

取組実績

セミナーには経験の浅い農業後継者や、販売農業者を目指す自給的農業者を中心に、10名が参加しています。指導農業士などのベテラン農業者等を講師に招き、計10回のカリキュラムを組んで実施しています（表）。

表 農業実践力養成セミナー第1期カリキュラム

回	開催日	講習内容
1	R5 9/4	開講式 生産履歴の記入方法 農業の安全使用
2	10/24	ハウレンソウの播種
3	12/12	ハウレンソウの収穫と出荷調整
4	R6 1/11	トラクター安全使用講習会
5	3/5	カンキツの剪定
6	3/12	ジャガイモの定植
7	5/16	ナスの定植
8	6/11	受講生圃場巡回
9	7/2	ナスの誘引と剪定
10	8/21	JA東京あおば直売所への出荷について 練馬区の各種事業の紹介 修了式

本セミナーでは、先進的な農業者の圃場で農作業を実際に体験することで、座学では学びにくい実用的な技術を習得できることがポイントです。さらに、講師農業者と顔見知りになることで、その後も継続して営農における疑問を相談しやすい関係を築くことが出来ます。また、受講生同士の交流も、情報交換や意欲の向上につながります。



写真1 ハウレンソウの播種



写真2 トラクター安全使用講習会

ハウレンソウの播種や、トラクターの安全使用などの講座（写真1、2）は、受講生の関心が高く、全員が参加しました。セミナー全体としての出席率も約7割と高く、概ね好評でした。受講生からは「自分が知らない栽培方法を学べて参考になった。」「他の農業者と交流することで良い刺激をもらった。」などの感想が聞かれました。

今後の予定

令和6年9月から第2期農業実践力養成セミナーを開催します。第2期のセミナーでは、第1期で組み込めなかった講座もあるため、第1期受講生も引き続き受講できるように、カリキュラムの内容を変更して開催する予定です。第2期も地域と密着した担い手育成をすすめ、関係機関と協力しながら、管内農業者の技術力及び農産物販売額の向上に貢献していきます。

西多摩農業改良
普及センター

女性切り花生産者部会 「リリース」の活動支援

西多摩地域の女性切り花生産者5名で構成される「リリース」は、会員相互の情報交換を図るとともに、切り花生産の技術研鑽と研究及び農業経営の向上を目的として、平成30年3月に発足しました。会員が出荷する地場産の切り花は、収穫後すぐに店頭に並ぶため「日持ちが良い」と直売所でも人気となっています。

リリースの活動

消費者の要望に応えられるために毎年新しい品目・品種の試作に挑戦しており、普及センターが栽培指導を行っています。また、普及センターと共同で定期的に会員の圃場を巡回し、栽培及び販売方法について情報交換を行っています（写真1）。



写真1 圃場巡回の様子

試作により定着した切り花（写真2）

【キンギョソウ】

ペンステモン咲きの「カリヨンシリーズ」が、茎の曲がり少なく日持ちも良いことから定着しました。8月下旬に定植し、10月下旬から収穫する作型に取り組んでいます。摘心の位置を調整することで、出荷時期の拡大を図れます。また、日当たりの良い場所であれば、冬越しして翌春にも出荷することができます。

【LAユリ】

夏の高温期を避けつつ年内出荷するために、氷温貯蔵球を使用しています。8月下旬から、球根が傷まないよう家庭用冷蔵庫を用いて5～

10℃で徐々に解凍処理を行い、9月上旬に定植します。出荷期にあたる10～11月は暖色系の花が消費者から好まれます。特に桃色の「ライプリー」は売れ行きが好調で、収量性も高いため定着しました。

【アスター】

4月に苗を定植し、新盆（7月15日頃）に収穫する普通露地栽培が定着しました。定植を遅らせて霜害を避けるため、開花までの期間が短い「松本シリーズ」が最も多く栽培されています。立枯病を防ぐため連作を控えることや、ウリハムシの被害を抑えるため、ウリ科作物が周囲にない圃場を選定するなどの病害虫対策を行っています。



写真2 定着した切り花
（左：キンギョソウ 中央：LAユリ 右：アスター）

表 各品目の栽培実績*

	定植	収穫	種苗費	売上
キンギョソウ	8月下旬	10月下旬～ 12月下旬	1.4	5.2
LAユリ	9月上旬	10月下旬～ 11月下旬	2.9	10.3
アスター	4月下旬	7月中旬～ 8月上旬	1.0	5.1

※種苗費と売上は、全会員の平均（単位：万円/a）

今後の取組

夏期に涼しげな印象を与える花に着目し、白い花卉が特徴的なヒマワリ「F1 ホワイトライト」の導入を試みます。また、種苗メーカーへの視察研修など、積極的に情報収集を行います。

普及センターでは、今後も品目・品種の提案や栽培指導を継続していきます。

南多摩農業改良
普及センター

タバコカスミカメ製剤を用いたコナジラミ類の防除

日野市では、トマトの施設栽培が盛んですが、タバココナジラミが媒介する黄化葉巻病の発生が問題となっています。タバココナジラミは多くの薬剤に対して抵抗性を獲得し、化学合成農薬主体の防除では対策が難しくなっています。そこで、コナジラミ類の天敵であるタバコカスミカメを活用した防除の取組を行いましたのでご紹介します。

タバコカスミカメについて

タバコカスミカメ（写真1）は、温暖な西日本を中心に国内に広く分布しています。コナジラミ類やアザミウマ類などの微小害虫を捕食する天敵で、成虫の大きさは約3.5mmです。雑食性で植物を食べる一面も持っており、害虫がいない時期にはクレオメやバーベナ、ゴマなどの「天敵温存植物」を用いることで害虫発生時まで温存が可能です。



写真1 タバコカスミカメ
(東京都農林総合研究センター病害虫チームより提供)

導入のポイント

タバコカスミカメ製剤「バコトップ」では、トマト2株あたり1頭を放飼します（1頭当たり約50円）。タバココナジラミが多く発生した状態では、タバコカスミカメを放飼しても捕食が追いつかず十分な効果が得られません。コナジラミ類の密度が高い場合は、タバコカスミカメに影響が少ない、もしくは影響が無くなるのが早い殺虫剤を散布し、害虫の密度を下げてから放飼するようにします。放飼後は、タバコカスミカメに影響のない農薬を使用します。天敵温存植物であるバーベナでは、60cmのプラン

ターなどに定植し、1aあたり1個以上を目安に日当たりの良い場所に設置します（写真2）。また、タバコカスミカメ幼虫は40℃以上の高温や15℃未満の低温に弱いため、施設内温度管理には注意が必要です。



写真2 天敵温存植物（バーベナ）の設置状況

日野市での導入事例

令和5年11月にトマトを定植したハウスに、タバコカスミカメ製剤を令和6年4月に放飼し、発生推移を調査しました（図）。気温の上昇に伴ってコナジラミ類が増加した6月に、タバコカスミカメも増加が確認され、タバココナジラミの多発防止が期待できました。

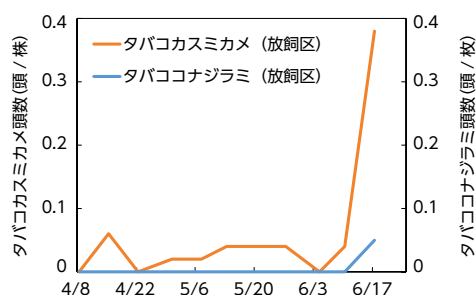


図 タバコカスミカメ、及びタバココナジラミの発生推移

今後の方針

タバコカスミカメの導入にあたって、天敵温存植物の効果的な使い方や、放飼時期の検証を引き続き行っていく必要があります。普及センターでは、今後もトマトの安定生産に向けた対策に取り組んでいきます。

北多摩農業改良
普及センター水封マルチを利用した
スイートコーンの前進栽培

スイートコーンは消費者から人気が高い品目です。出荷時期を早めることができれば高単価での販売が見込め、直売所の品揃えを充実させることができます。

そこで、普及センターでは、「水封マルチ」を活用したスイートコーンの前進栽培を試みました。「水封マルチ」とは、冬季に筒状のフィルム内に水を封入し、昼間に太陽熱を蓄えて夜間の気温・地温を保つ資材です。

耕種概要と水封マルチの設置

供試品種は「ゴールドラッシュ86」で、1月11日にセルトレイに播種した後、電熱温床により育苗しました。苗はパイプハウス内に透明マルチを設置した畝に2月3日に定植し、トンネル被覆を行いました。また、「水封マルチ」は定植前日に透明マルチの上に設置しました（写真1）。栽培期間中に「水封マルチ」を設置した畝と設置していない畝の地温を測定するとともに、収穫時期と販売価格の調査を行いました。

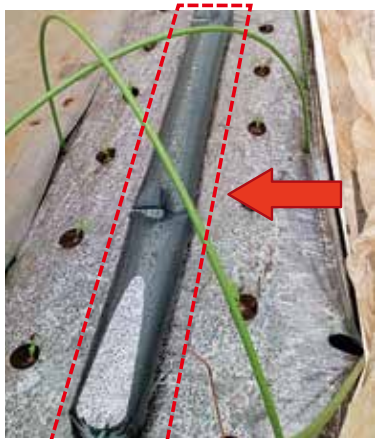


写真1 畝の中央に設置した水封マルチ（赤枠内）

水封マルチの保温効果

「水封マルチ」を設置した畝の地温は、設置していない畝と比べて高く推移しました。特に気温が低下した3月2日から4日は最大5℃の温度差があり、「水封マルチ」による地温維持効果を確認できました（図）。

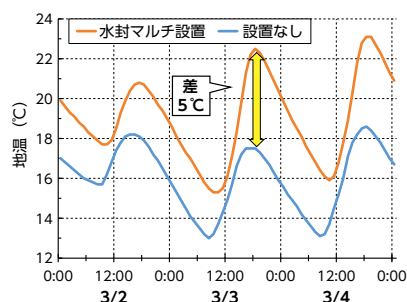


図 「水封マルチ」を設置した畝および設置していない畝の地温比較

収穫時期と販売価格

スイートコーンは順調に生育し、収穫開始日は5月11日でした。慣行の作型は2月下旬定植、5月下旬収穫開始ですが、「水封マルチ」を使用した結果、約半月収穫時期を前進できました。

収穫物は直売所で販売し、重さ300g以上のものは1本280円、250g前後のものは1本250円で販売しました。慣行の作型と比べて40円程度高値で販売でき、1a当たり約29,600円増収でした。なお「水封マルチ」の価格は約7,100円/aでした。



写真2 収穫物の様子

栽培上の注意点と今後の課題

今回の結果により、「水封マルチ」を利用したスイートコーンの前進栽培は有望であると考えられました。しかし、収穫物は先端不稔の発生がありました（写真2）。換気不足による高温や、乾燥等によるストレスで、雄穂と雌穂の開花にずれがあったことが原因として考えられます。ハウス栽培では特に春先の高温や、灌水不足による乾燥への注意が必要です。

振興課
技術総合調整担当

ダイコンの冬越し・ 初春どり栽培のポイント

ダイコンの「秋まき」は、気温が低下に向かう時期であるために比較的栽培しやすい作型です。しかし同じ秋まきでも、冬越しをして2月以降の初春に収穫する作型では、凍害や抽だいなどの障害が発生しやすく、良品生産が難しくなります。ここでは初春どり栽培を例に、障害や抽だい回避のためのポイントを解説します。

作型の特徴

10～11月にマルチを敷いた圃場に播種し、11月中下旬に不織布でべたがけを行うとともに、穴あき農POフィルム（ユーラックカンキ2～4号など）でトンネル被覆を行います（図1）。

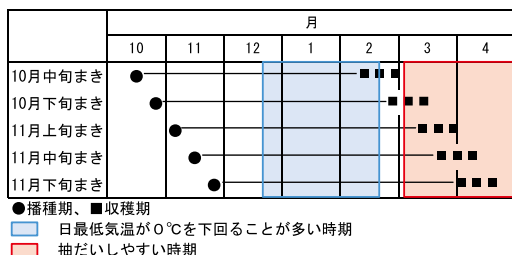


図1 ダイコンの冬越し・初春どり作型の概要

ダイコンは12℃以下の低温に一定期間遭遇すると花芽が分化しますが、その後20℃以上の高温に遭遇すると低温の影響が打ち消されます。低温期に保温することで、初春の抽だいを回避すると同時に、根部地上部の凍害や空洞症（写真1）の発生を防止します。特に12月下旬～2月中旬は日最低気温が0℃を下回ることが多く、注意が必要です。被覆の終了時期は概ね2月下旬とします。遅れると、高温のため抽だいが早まります。



写真1 ダイコンの生育障害（左：凍害 右：空洞症）

不織布（べたがけ資材）の特性について

厚みのある不織布（アイホッカ#40など）は

保温性が高く、薄めのもの（パスライトなど）は透光性が高いのが特徴です。このため、秋～冬は厚みのある不織布を、日射が強まる冬～春は透光性のある不織布を使うことで、地温を高くすることができます（図2）。

一方、吸湿性のある資材（ダイオベタロン、クレモナ寒冷紗など）は通気性と熱線を逃さない特性を併せ持つため、寒暖差のある時期の保温に適しています。

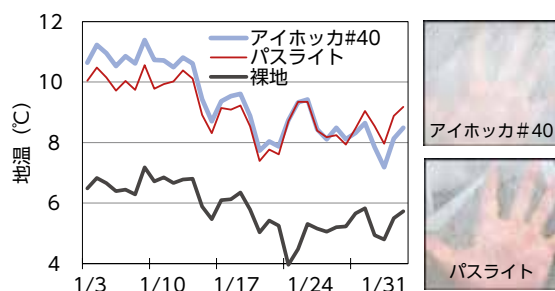


図2 べたがけ資材の種類が地温に与える影響

マルチの種類や土壤水分の影響

使用するマルチの種類と土壤水分の影響を見ると、透明マルチと黒マルチでは透明の方が、乾いた土壌よりは湿った土壌の方が蓄熱作用が強く、より地温を高く保つことができます（図3）。

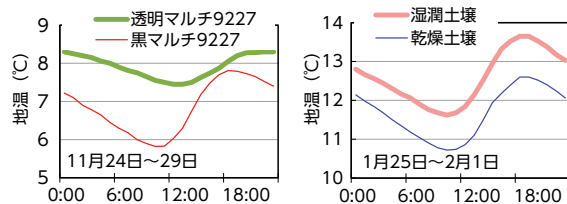


図3 マルチの種類と土壤水分が圃場の地温に与える影響

品種選定について

ダイコンの耐寒性の強弱や抽だいの早晩には、品種間差があります。「桜の砦、YR春の浦、春桜舞、春神楽、冬馬力」は耐寒性が強く、抽だいの遅いことが判明しています。また「三太郎」は密植すると根部の肩が地上に出にくく、障害が少なくなります。短形品種では「味短歌」が適しています。

農業振興事務所振興課
農業基盤整備担当

「未来に残す東京の農地プロジェクト」の概要

都内の農地は年々減少を続けています。さらに農家数の減少や農業従事者の高齢化等、東京の農地を取り巻く環境は、これまで以上に厳しい局面を迎えています。

「未来に残す東京の農地プロジェクト」は、宅地などの現況非農地から農地への転換や、遊休農地の再生、農地が持つ多面的機能を発揮するために必要な施設整備、農的空間を確保するための整備など、区市町村が作成した実施計画に基づき、ソフト・ハードの両面から区市町村や生産者を支援する事業です。今回はその概要を紹介します。

支援内容 ※各支援の組合せ可

①農地創出型（補助率：1/2以内）

農地や農的空間としての利用を目的として、現況非農地を整地・整備し、農地などの面積を増加させる整備（建築物の基礎や舗装版の撤去、除礫、深耕、客土など）



写真 農地創出型事業の実施例（住宅から畑地へ）

②農地再生型

（1/2以内、認定新規就農者2/3以内）

遊休農地や条件が悪く貸借が進まない農地を再生利用するための整備や、後継者の就農などに伴う作目転換をするための整備（伐採、伐根など）

③生活環境型（3/4以内）

農地が持つ多面的機能を十分に発揮し、地域と調和した農地として保全していくために必要な施設整備（土留め、農薬飛散防止施設、簡易直売所など）

④防災安全型（3/4以内）

農地が持つ防災機能を向上するための施設整備及び農業用水の安全を確保するための整備（防災兼用農業用井戸、用水路の蓋掛けなど）

⑤公的利用型

（3/4以内、補助金上限1億円/箇所）

区市町村が所有する土地における市民農園や農業公園などの整備

⑥推進支援型（1/2以内）

各支援型の実施に係る設計や調査、農地保全に係る広報活動、農業体験農園開設時に行うPR活動などへの支援

支援の実施方法

区市町村が実施主体として都から補助金を受け、対象の農業者などに対して事業を実施

実施に向けたスケジュール

事業実施の前年度

- ① 4月～5月頃 要望調査
- ② 6月～7月頃 要望内容の精査・調整
- ③ 8月～9月頃 現地調査・ヒアリング等

※今後要望する場合、最短で令和8年度に実施

詳しい事業内容などについては、区市町村にご相談をお願いします。

「盛土規制法」運用開始のお知らせ

令和4年度に成立した「宅地造成及び特定盛土等規制法（通称 盛土規制法）」に基づく規制が、本年7月31日から開始されました。以降に行う一定規模以上の盛土・切土などが規制対象です。

自分の農地に耕作目的で行う盛土（客土）でも、例えば、面積が500m²を超え周囲の地盤より30cm以上盛土する場合などは、手続きが必要です。

盛土をする前に、規制対象かどうか忘れずに確認してください。お問い合わせは下記まで。

- 23区・八王子市・町田市：区市役所
- 上記以外の多摩地域：多摩建築指導事務所
☎ 042-548-2037
- 島しょ地域：都市整備局区画整理課
☎ 03-5320-5132

一口メモ

葛飾区のブルーベリー観光農園

葛飾区には、ブルーベリーの観光農園が2園あります。そのうち1園では鉢で栽培するコンテナ栽培が行われています。今年は6月中旬から7月の下旬までの土曜日と日曜日に開園し、多くの人で賑わいました。この園にはラビットアイ系、ハイブッシュ系合わせて17品種あり、味や香り、食感が違う様々なブルーベリーが楽しめます。「ピンクレモネード」など、一般流通が少なく観光農園でしか味わえない品種も多くあります。また、生果で食べることが多いため、極力、農薬散布を抑えて栽培しています。

当初は地植えで栽培をしていましたが、試行錯誤を重ねた結果、コンテナでの栽培に切り替えました。これにより、樹ごとに樹勢や生育に適した水分、肥培管理を行っています。



コンテナで栽培されたブルーベリー

一口メモ

八王子産酒米の利活用

八王子市高月町で栽培された酒米を使い、株式会社舞姫で作られた日本酒「高尾の天狗」が、都内を中心に販売され好評を得ています。このお酒は、高月町の気候に合う酒米の選定から始まり、試行錯誤をしながら品質を高めていき、2014年から製造が開始されました。また、地域との交流として、毎年田植えイベントを行っており、200人以上が参加しております。

八王子産の日本酒は静かな盛り上がりを見せ、昨年には東京で令和初、10番目の酒蔵として「東京八王子酒造」が誕生しました。ここでは最新の技術や設備、都市型立地を活かして、1年を通して常にフレッシュな日本酒が造られています。



東京八王子酒造

お知らせ

◎東京農林水産フェア（立川会場・青梅会場）

日時：（立川会場）令和6年10月26日（土） 10時～15時

会場：（公財）東京都農林水産振興財団立川庁舎

（青梅会場）令和6年10月19日（土） 9時30分～15時

会場：同 青梅庁舎

◎東京味わいフェスタ2024

日時：令和6年10月25日（金）～27日（日） 11時～20時（会場によって異なる）

会場：丸の内、日比谷、有楽町、豊洲 ※有楽町にて第53回東京都農業祭を同時開催。（25日～26日）

●表紙写真：コンテナ栽培によるブルーベリー園と収穫を待つ果実（葛飾区）

◆お問い合わせは下記まで・・・

農業振興事務所区部農業改良普及センター

☎03-3678-5905

農業振興事務所区部農業改良普及センター城北・城南分室

☎03-3311-9950

※近日移転予定 新しい連絡先は農業振興事務所ホームページ等で、今後お知らせします

農業振興事務所西多摩農業改良普及センター

☎0428-31-2374

農業振興事務所南多摩農業改良普及センター

☎042-674-5971

農業振興事務所北多摩農業改良普及センター

☎042-465-9882

農業振興事務所振興課

☎042-548-5053

とうきょう普及インフォメーション131

印刷物規格表第1類
登録番号 (4) 10

令和6年10月1日発行

編集・発行 東京都農業振興事務所振興課
立川市錦町3-12-11

☎ 042-548-5053

FAX 042-548-4871

印刷 明誠企画株式会社

☎ 042-567-6233